

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 199

事務事業名	介護予防教室等事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	福祉保健部		
課名	長寿介護課		
課長名	山下 志朗	内線	89-100
担当者名	寺道 和代	内線	80-201

基本目標		健康でいきいきと暮らせるまち
政策	020202	高齢者が暮らしやすいまちづくり
施策		高齢者の生きがいづくりと介護予防の推進
関連施策		

会計	介護保険事業特別会計		
款	3	地域支援事業費	
項	2	一般介護予防事業費	
目	1	一般介護予防事業費	
事業コード	020100	介護予防教室等事業	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画	大村市高齢者保健福祉計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	市内在住の65歳以上の高齢者が所属する地域の団体及び高齢者を支援する団体等		
意図	急速な高齢化社会の進行とともに、要支援・要介護高齢者や虚弱高齢者が増加している中で、介護予防に関する知識や情報を一般の高齢者が自ら学び、健康の重要性を認識することで介護予防に役立ててもらおう。		
事業概要	対象となる団体から申請を受け、集会等に講師を派遣することで、高齢者等に対し学習機会の充実及び介護予防の意識啓発を図るとともに、市が行う高齢者施策への理解を深めてもらう。 ・介護保険制度(講話) ・健康体操(講話・運動) ・スクエアステップ(運動) ・人生ノートづくり(講話・実践) ・歯と口腔ケア(講話・実践) ・クッキング(講話・実践) ・栄養と食事(講話) ・いのちを守るゲートキーパー(講話) ・高齢者の詐欺予防(講話) ・認知症(講話) ・シナプ・ソロジー(講話・実践) ・レクリエーション・体験		
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営、委託
根拠法令、要綱等	介護保険法115条の45項、地域支援事業実施要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 介護予防教室開催数	計画値	80	110	120	170	
		実績値	79	91	145		
		達成度	%	98.8%	82.7%	120.8%	
活動指標	② 町内会や老人会等への周知活動回数	計画値	4	5	5	5	
		実績値	5	3	3		
		達成度	%	125.0%	60.0%	60.0%	
成果指標	① 介護予防教室参加者数	計画値	1,728	2,400	2,500	2,700	
		実績値	1,725	1,865	2,495		
		達成度	%	99.8%	77.7%	99.8%	
	② 介護予防教室利用団体数	計画値	53	70	70	90	
		実績値	51	56	75		
		達成度	%	96.2%	80.0%	107.1%	

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画	
① 事業費(千円)	2,128	2,122	2,091	3,027	2,475	2,475	2,475	0	
国庫支出金	449	499	474	756	618	618	618		
県支出金	424	250	266	378	310	310	310		
地方債					0	0	0		
その他	1,031	578	591	851	697	697	697		
一般財源	224	795	760	1,042	850	850	850		
② 人件費(千円)	10,881	2,108	2,647	2,551	事業内容	事業内容	事業内容	備考	
職員人数(人)	0.20	0.27	0.34	0.31	・介護予防に関する講師派遣	・介護予防に関する講師派遣	・介護予防に関する講師派遣		
時間外勤務(時間)	21	34	106	130					
嘱託等人数(人)	5.00		0.02	0.02					
フルコスト(①+②千円)	13,009	4,230	4,738	5,578					

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	認知症対策の強化のため、認知症予防に役立つ講座を新たに盛り込んだ内容(シナプ・ソロジー、クッキング)を実施している。 また、高齢者が安全に安心して暮らせるためにも警察機関にご協力をお願いし、高齢者の詐欺予防の講話など本年度から新たに講座を開設している。
事業が抱える問題・課題等	高齢者が介護予防に必要な知識を習得してもらうためには、受講した方々がまた、講座を受けたいと思うような内容であることが大切であり、毎年、高齢者のニーズに合わせた講座内容に修正する必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	高齢者が加齢とともに心身の機能低下をきたし要介護認定者へ移行しないよう介護予防教室を通じて介護予防の知識の普及啓発を図ることの必要性は高い。						
妥当性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	介護予防の取組を行うことにより、要介護認定者の抑制に繋がるため、市の関与は妥当である。						
有効性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	介護予防教室開催数や参加者数については、全体的に年々増加傾向である。 活動する団体が固定化してきていることはあるが、継続して活動している団体からは参加人数等や開催回数は増加傾向であり、一定の成果はあがっている。						
有効性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	本事業を通じ、高齢者自身の生活機能の低下防止と生きがいづくりの意識の定着を図ることで、地域の高齢者が主体となった保健福祉の向上が図られる。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	介護保険事業の地域支援事業を活用することで、効率的な事業の実施に努めている。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	アンケート内容で、介護の仕方等の講座してほしいとの要望も出ており、地域全体の介護力を強化するための講座内容を盛り込むことが、今後は必要と思われる。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	地域が主体となった介護予防基盤の整備が図られる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。